

熊本県立荒尾支援学校進路便り 通巻 (NO. 41)

わーく&らifu

令和元年12月13日 進路指導部 発行

■ Contents

★シリーズ 職員進路研修 職場ルポ(D班)

～卒業後の姿・社会のモノサシに触れる実践～

事業所・施設名	所在地	提供する主なサービス
① 障害者就労・自立支援センター たんぽぽ	福岡県大牟田市八本町 100-9	就労移行支援 就労継続支援 A・B 型 就労定着支援
② NPO 法人 花梨の家わがんせ	熊本県荒尾市荒尾 1694-1	就労移行支援継続 B 型 生活介護

就労移行利用後の就職率 **100%!!**

★障害者就労・自立支援センター たんぽぽ★

「たんぽぽ」は、社会福祉法人キリスト会奉仕会が運営する就労系の事業所で、大牟田市八本町に主たる事業所、不知火町に分場「大牟田中央サテライトオフィス」を構えています。

「たんぽぽ」は、「就労移行支援」「就労継続支援 A 型」「就労継続支援 B 型」の三つのサービスを展開されています。総定員は 40 名と大牟田でも有数の事業所で、特に就労移行支援では過去 5 年間で 44 人もの就職を実現されました。

また今年から、就職を実現された方が長くはたらき続けられるための「就労定着支援」も開始され、たんぽぽ卒業生の「働く生活」をていねいに支援し続けられています。

利用～就職までの流れ

「相談・見学」→「体験利用・面接」→「職業準備訓練 職場実習」→「就職」→「職場定着支援」までの流れに沿って、ていねいに取り組まれています。

『個別プログラムの充実』

発達障がい・精神障がいのある方の専門プログラムが準備されていて、OA 作業等の実務講座や資格取得のための専門講座 (MOS・日本語検定) の中から自分にあったメニューを選択できたり、グループワークでは、コミュニケーションスキルを効率的に習得できたり、環境が整えられています。

『大牟田中央サテライトオフィス』

一番新しい事業所「サテライトオフィス」は、企業で働くためのトレーニングを、できるだけ企業に近い環境で行おうと、オフィスビルとして使用していた建物を活用されているので、普段から企業で働いているような雰囲気の中で集中して訓練に取り組むことができる素晴らしい環境でした。

一人一人に合った作業を、一人一人のペースで!!

★花梨の家 わがんせ★

「花梨の家わがんせ」は、2002 年 (平成 14 年)「重度の子ども達の通う場がない」荒尾市の現状を鑑みて、荒尾養護学校 (当時) の保護者の皆さんが一念発起。力を合わせて立ち上げた施設です。

はじめは、荒尾市単独の事業としてスタートしました。

当時は自治体からの補助金がわずかしかない「共同作業所」でしたが、2007 年 (平成 19 年) から障害者自立支援法に基づく国の事業として「生活介護」「就労継続支援 B 型」事業を開始され、現在に至ります。

活動当初から、中心になって奮闘された宮崎さんが現在も施設長を務めておられ、親の立場・事業所の立場双方の視点をもつ貴重な人材として、本校の学校評議員も務めて頂いています。



「安心感いっぱい!」

わがんせには、施設長のお子様をはじめ本校の卒業生が多く利用されています。

加えて卒業生保護者も数名、支援員として活躍されているなど、職員の皆様の、障がいのある人への理解が深く、親身になって寄り添おうとする思いを感じることができました。

「親心や温かな思いで成長を見守る」

「共同作業所」から、自立支援法に基づく事業所 (生活介護・就労継続 B 型) になったことで、経営面では安定してきました。

しかし一方では、かつてあった「親のエネルギー」「親の連帯」には変化が見られ、若い保護者世代との溝や、難しさを感じておられるとのこと。

しかしわがんせとしては今まで通り、単に事業所と利用者という枠ではなく、「子どもの成長をともに感じ、見守っていく。」という親心や温かな思いを大切に、社会参加に向けて取り組んでいきたいとお話をされていたのが印象的でした。

編集後記

筆者は以前、福岡県立の特別支援学校で「就職指導員」として勤務した経験があります。多くの企業を訪問し、特別支援学校の理解啓発を行ったり、生徒の就活指導 (面接指導) を行ったりしました。

その時多くの企業訪問を通じて感じたことを少し紹介します。

企業が考える「身につけておきたい力」の第一は、「気持ちのいいあいさつ」でした。職場は人間関係が基盤であり、「気持ちのいいあいさつ」は必要不可欠だということ、たとえトラブルが生じても「気持ちのいいあいさつ」で築いた円滑な人間関係があれば乗り越えられるとお聞きました。

第二は、「時間の概念を身につけていること」でした。企業にとって予期せぬ遅刻や欠勤は大きな痛手です。時間に遅れない習慣は、学生時代から身につける必要があります。

また遅刻や欠勤の際、本人にも保護者にも連絡がつかなかったという事例が多いため、企業は保護者との連携・協力も重視されていました。

これらのことから、学校、家庭は互いの役割を確認し連携をとりながら一人一人の社会参加に必要な力を確実につけていくことが大切です。

高等部 3 年生は卒業まで残り 3 ヶ月程となりました。荒尾支援学校で、しっかりと力をつけ自信をもって将来に羽ばたいてほしいと思います。

(高等部 吉村)